

6課

2月7日

キリストにのみ頼る

安息日午後

1月31日

暗証聖句

すなわち、キリストとその復活の力を知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。(ピリピ 3:10、11、口語訳)

わたしは、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあづかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。(フィリピ 3:10、11、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ (ピリピ) 3:1~16、ローマ 2:25~29、ヨハネ 9:1~39、

エフェソ (エペソ) 1:4、10、コリント 9:24~27

今週のテーマ

律法の行いによるのではなく、信仰によってのみ救われるということについて、私たちには何か釈然としないところがあるようです。つまり、私たちはみな、どういうわけか自分の行いが救いの足しになるかのように、行いに傾倒しがちなのです。パウロは、割礼が救いに必要だと主張する人々に対する激しい反論の中で、この点をかなり印象的に論じています。

パウロは、割礼などの行いが救いに貢献していると、ある人たちが考える可能性を防ぐために、義は律法によってではなく、信仰によってもたらされるキリストからの賜物であることを明確に述べています。割礼は、今日では問題にならないかもしれません、それが扱う原則自体は、今なお問題です。

宗教改革そのものが、まさにこの問題、つまりキリストに従う者の経験における信仰と行いの役割をめぐって始まりました。結局のところ、キリストは私たちにとってすべてであり、「信仰の創始者また完成者」〔口語訳「信仰の導き手であり、またその完成者〕(ヘブ12:2)です。もし私たちが優先順位を正しくついているなら、私たちは「肉に頼らない」〔口語訳「肉を頼みとしない〕(フィリピ3:3)で、神の愛を確信しながら生き、今でも救いの約束を享受できるでしょう。

ヘブ 12:2 （新共同訳）

12:2 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。

フィリ 3:3 （新共同訳）

3:3 彼らではなく、わたしたちこそ眞の割礼を受けた者です。わたしたちは神の靈によって礼拝し、キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。

ヘブ 12:2 （口語訳）

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

ピリ 3:3 （口語訳）

3:3 神の靈によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇りとし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。

日曜日 2月1日 主において喜ぶ [口語訳:主にあって喜ぶ、フィリ(ピリ)3:1参照]

問1 フィリピ (ピリピ) 3:1~3 を読んでください。ここでパウロは、どのような肯定的な言葉と否定的な言葉を発していますか。また、それらはいかに関連していますか。彼は信者をいかに描写していますか。

パウロは非常に肯定的な言葉で始めており、まるで手紙を締めくくっているかのようです。しかし、まだ終わりではありません。彼はこの書簡の主題の一つである「主において喜ぶこと」[口語訳「主にあって喜ぶこと」(フィリ(ピリ)3:2)]に戻ります。そして、その理由をいくつかここで挙げています。最も重要なのは、私たちが自分自身を頼るのではなく、キリストを頼らねばならないということです。「わたしたちは……キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです」[口語訳「(わたしたちは)キリスト・イエスを誇りとし、肉を頼みとしない」](フィリ(ピリ)3:3)。私たちの中に、何らかの形でつらい体験をして、肉に頼る愚かさを学んだ人はいるでしょうか。

「注意しなさい」「気をつけなさい」「警戒しなさい」[口語訳「警戒しなさい」(フィリ(ピリ)3:2)]という三度もの強い警告は、聖書のどこにも見当たりません。フィリピ (ピリピ)の信徒は、パウロが言及している脅威をよく知っていたようです。この警告は、三つの別々の問題を指しているのではなく、三つの異なる形で表現された一つの偽教師のグループを指しているようです。

イスラエルにおいて邪悪な人や不信心な人は、「犬」と呼ばれることがありました(フィリ(ピリ)3:2、詩編 22:17[口語訳[詩篇]22:16]、イザ 56:10、マタ 7:6、ユペト[ペテ]2:21、22 と比較)。偽教師は、「よこしまな働き手」[口語訳「悪い働き人」]ともふさわしく表現されています。彼らが「切り傷にすぎない割礼を持つ者」[口語訳「肉に割礼の傷をついている人たち」](フィリ(ピリ)3:2)と呼ばれていることは、ガラテヤやほかの地域と同様、彼らが使徒会議(エルサレム会議)(使徒15章参照)の決定に反して、異邦人の信者に割礼を強制しようとしていたことを示しています。

興味深いことに、偽りの教えの蔓延を含む靈的な課題に対する解決策の一つは、「主において喜ぶ」〔口語訳「主にあって喜ぶ〕(フィリ〔ピリ〕3:1、同4:4と比較)ことであるようです。

私たちが「喜ぶ(rejoice)」ものは何であれ、「喜び(joy)」をもたらします(英語と同様、これらの言葉に相当する二つのギリシア語は関連している)。神は、私たちが喜びに満たされることを望んでおられ、神の言葉は、眞の幸福と永続的な喜びのための一一種の取扱説明書です。その幸福と喜びには、神の慈しみ(いつくしみ)を受けること(詩編31:8〔口語訳〔詩篇〕31:7〕)、神に信頼を置くこと(同5:12〔口語訳5:11〕)、救いの祝福を受けること(詩編9:15〔口語訳9:14〕)、安息日を含め(イザヤ58:13、14)、神の律法を私たちの生き方として受け入れること(詩編〔詩篇〕119:14)、神の言葉を信じること(詩編〔詩篇〕119:162)、敬虔な子どもたちを育てること(箴言23:24、25)などが含まれます。

【参考】英語テキストにある文

Life can be very difficult for us all, no matter how well things might be going at the moment. But even if they are not going well now, what things can you and should you rejoice about? What is stopping you from doing it?

たとえ今物事がうまくいくついているとしても、人生は誰にとっても非常に困難なものになります。しかし、たとえ今はうまくいくついていなくても、何を喜ぶことができるでしょうか、また喜ぶべきでしょうか。何があなたの喜びを妨げているのでしょうか。

フィリ 3:1～3 (新共同訳)

3:1 では、わたしの兄弟たち、主において喜びなさい。同じことをもう一度書きますが、これはわたしには煩わしいではなく、あなたがたにとって安全なことです。

3:2 あの犬どもに注意しなさい。よこしまな働き手たちに気をつけなさい。切り傷にすぎない割礼を持つ者たちを警戒しなさい。

3:3 彼らではなく、わたしたちこそ眞の割礼を受けた者です。わたしたちは神の靈によって礼拝し、キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。

詩 22:17 (新共同訳)

22:17 犬どもがわたしを取り囲み/さいなむ者が群がってわたしを囲み/獅子のようにわたしの手足を碎く。

イザ 56:10 (新共同訳)

56:10 見張りはだれも、見る力がなく、何も知らない。口を閉ざされた犬で、ほえ

ピリ 3:1～3 (口語訳)

3:1 最後に、わたしの兄弟たちよ。主において喜びなさい。さきに書いたのと同じことをここで繰り返すが、それは、わたしには煩わしいことではなく、あなたがたには安全なことになる。

3:2 あの犬どもを警戒しなさい。悪い働き人たちを警戒しなさい。肉に割礼の傷をつけている人たちを警戒しなさい。

3:3 神の靈によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇りとし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。

詩 22:16 (口語訳)

22:16 まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。

イザ 56:10 (口語訳)

56:10 見張人らはみな目しいで、知ることがなく、みな、おしの犬で、ほえるこ

ることができない。伏してうたたねし、眠ることを愛する。

マタ 7:6 (新共同訳)

7:6 神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう。」

IIペト 2:21, 22 (新共同訳)

2:21 義の道を知つていながら、自分たちに伝えられた聖なる掟から離れて去るよりは、義の道を知らなかつた方が、彼らのためによかつたであろう。

2:22 ことわざに、「犬は、自分の吐いた物のところへ戻つて来る」/また、「豚は、体を洗つて、また、泥の中を転げ回る」と言つてゐるとおりのことが彼らの身に起こつているのです。

使徒 15:1～35 (新共同訳)

15:1 ある人々がユダヤから下つて来て、「モーセの慣習に従つて割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と兄弟たちに教えていた。

15:2 それで、パウロやバルナバとその人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた。この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。

15:3 さて、一行は教会の人々から送り出されて、フェニキアとサマリア地方を通り、道すがら、兄弟たちに異邦人が改宗した次第を詳しく伝え、皆を大いに喜ばせた。

15:4 エルサレムに到着すると、彼らは教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎され、神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した。

15:5 ところが、ファリサイ派から信者になつた人が数名立つて、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言った。

15:6 そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まつた。

15:7 議論を重ねた後、ペトロが立つて彼らに言った。「兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異

とができる。みな夢みる者、伏している者、まどろむことを好む者だ。

マタ 7:6 (口語訳)

7:6 聖なるものを犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。恐らく彼らはそれらを足で踏みつけ、向きなおつてあなたがたにかみついてくるであろう。

IIペト 2:21, 22 (口語訳)

2:21 義の道を心得ていながら、自分に授けられた聖なる戒めにそむくよりは、むしろ義の道を知らなかつた方がよい。

2:22 ことわざに、「犬は自分の吐いた物に帰り、豚は洗われても、また、どろの中にころがつて行く」とあるが、彼らの身に起つたことは、そのとおりである。

使徒 15:1～35 (口語訳)

15:1 さて、ある人たちがユダヤから下つてきて、兄弟たちに「あなたがたも、モーセの慣習にしたがつて割礼を受けなければ、救われない」と、説いていた。

15:2 そこで、パウロやバルナバと彼らとの間に、少なからぬ紛糾と争論とが生じたので、パウロ、バルナバそのほか数人の者がエルサレムに上り、使徒たちや長老たちと、この問題について協議することになった。

15:3 彼らは教会の人々に見送られ、ピニケ、サマリヤをとおつて、道すがら、異邦人たちの改宗の模様をくわしく説明し、すべての兄弟たちを大いに喜ばせた。

15:4 エルサレムに着くと、彼らは教会と使徒たち、長老たちに迎えられて、神が彼らと共にいてなされたことを、ことごとく報告した。

15:5 ところが、パリサイ派から信仰にはいってきた人たちが立つて、「異邦人にも割礼を施し、またモーセの律法を守らせるべきである」と主張した。

15:6 そこで、使徒たちや長老たちが、この問題について審議するために集まつた。

15:7 激しい争論があつた後、ペトロが立つて言った、「兄弟たちよ、ご承知のとおり、異邦人がわたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになると、神は初めのこ

邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです。

15:8 人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖靈を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです。

15:9 また、彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。

15:10 それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかつた輒を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。

15:11 わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」

15:12 すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。

15:13 二人が話を終えると、ヤコブが答えた。「兄弟たち、聞いてください。

15:14 神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなさった次第については、シメオンが話してくれました。

15:15 預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。

15:16 『「その後、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。その破壊された所を建て直して、元どおりにする。』

15:17-18 それは、人々のうちの残った者や、わたしの名で呼ばれる異邦人が皆、主を求めるようになるためだ。』/昔から知らされていたことを行う主は、こう言われる。』

15:19 それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。

15:20 ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。

15:21 モーセの律法は、昔からどの町に

ろに、諸君の中からわたしをお選びになったのである。

15:8 そして、人の心をご存じである神は、聖靈をわれわれに賜わったと同様に彼らにも賜わって、彼らに対してあかしをなし、

15:9 また、その信仰によって彼らの心をきよめ、われわれと彼らとの間に、なんの分けへだてもなさらなかつた。

15:10 しかるに、諸君はなぜ、今われわれの先祖もわれわれ自身も、負いきれなかつたくびきをあの弟子たちの首にかけて、神を試みるのか。

15:11 確かに、主イエスのめぐみによつて、われわれは救われるのだと信じるが、彼らとても同様である。』

15:12 すると、全会衆は黙ってしまった。それから、バルナバとパウロとが、彼らとおして異邦人の間に神が行われた数々のしるしと奇跡のことを、説明するのを聞いた。

15:13 ふたりが語り終えた後、ヤコブはそれに応じて述べた、「兄弟たちよ、わたしの意見を聞いていただきたい。

15:14 神が初めに異邦人たちを顧みて、その中から御名を負う民を選び出された次第は、シメオンがすでに説明した。

15:15 預言者たちの言葉も、それと一致している。すなわち、こう書いてある、

15:16 『その後、わたしは帰ってきて、倒れたダビデの幕屋を建てかえ、くずれた箇所を修理し、それを立て直そう。』

15:17 残っている人々も、わたしの名を唱えているすべての異邦人も、主を尋ね求めるようになるためである。

15:18 世の初めからこれらの事を知らせておられる主が、こう仰せになった。』

15:19 そこで、わたしの意見では、異邦人の中から神に帰依している人たちに、わずらいをかけてはいけない。

15:20 ただ、偶像に供えて汚れた物と、不品行と、絞め殺したものと、血とを、避けるようにと、彼らに書き送ることにしたい。

15:21 古い時代から、どの町にもモーセ

も告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」

15:22 そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。

15:23 使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。」

15:24 聞くところによると、わたしたちのうちのある者がそちらへ行き、わたしたちから何の指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ動揺させたとのことです。

15:25 それで、人を選び、わたしたちの愛するバルナバとパウロと同行させて、そちらに派遣することを、わたしたちは満場一致で決定しました。

15:26 このバルナバとパウロは、わたしたちの主イエス・キリストの名のために身を獻げている人たちです。

15:27 それで、ユダとシラスを選んで派遣しますが、彼らは同じことを口頭でも説明するでしょう。

15:28 聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。

15:29 すなわち、偶像に獻げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。」

15:30 さて、彼ら一同は見送りを受けて出発し、アンティオキアに到着すると、信者全体を集めて手紙を手渡した。

15:31 彼らはそれを読み、励ましに満ちた決定を知って喜んだ。

15:32 ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟たちを励まし力づけ、

15:33 しばらくここに滞在した後、兄弟

の律法を宣べ伝える者がいて、安息日ごとにそれを諸会堂で朗読するならわしがあるから」。

15:22 そこで、使徒たちや長老たちは、全教会と協議した末、お互の中から人々を選んで、パウロやバルナバと共に、アンティオケに派遣することに決めた。選ばれたのは、バルサバというユダとシラスであったが、いずれも兄弟たちの間で重んじられていた人たちであった。

15:23 この人たちに託された書面はこうである。「あなたがたの兄弟である使徒および長老たちから、アンティオケ、シリヤ、キリキヤにいる異邦人の兄弟がたに、あいさつを送る。」

15:24 こちらから行ったある者たちが、わたしたちからの指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ、あなたがたの心を乱したと伝え聞いた。

15:25 そこで、わたしたちは人々を選んで、愛するバルナバおよびパウロと共に、あなたがたのもとに派遣することに、衆議一決した。

15:26 このふたりは、われらの主イエス・キリストの名のために、その命を投げ出した人々であるが、

15:27 彼らと共に、ユダとシラスとを派遣する次第である。この人たちには、あなたがたに、同じ趣旨のことを、口頭でも伝えるであろう。

15:28 すなわち、聖霊とわたしたちは、次の必要事項のほかは、どんな負担をも、あなたがたに負わせないことに決めた。

15:29 それは、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、不品行とを、避けるということである。これらのものから遠ざかっておれば、それでよろしい。以上」。

15:30 さて、一行は人々に見送られて、アンティオケに下って行き、会衆を集めて、その書面を手渡した。

15:31 人々はそれを読んで、その勧めの言葉をよろこんだ。

15:32 ユダとシラスとは共に預言者であったので、多くの言葉をもって兄弟たちを励まし、また力づけた。

15:33 ふたりは、しばらくの時を、そこで

たちから送別の挨拶を受けて見送られ、自分たちを派遣した人々のところへ帰つて行つた。

15:34 †

15:35 しかし、パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって教え、他の多くの人と一緒に主の言葉の福音を告げ知らせた。

フィリ 3:1 (新共同訳)

3:1 では、わたしの兄弟たち、主において喜びなさい。同じことをもう一度書きますが、これはわたしには煩わしいことではなく、あなたがたにとって安全なことです。

フィリ 4:4 (新共同訳)

4:4 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

詩 31:8 (新共同訳)

31:8 慈しみをいただいて、わたしは喜び躍ります。あなたはわたしの苦しみを御覧になり/わたしの魂の悩みを知ってくださいました。

詩 5:12 (新共同訳)

5:12 あなたを避けどころとする者は皆、喜び祝い/どこしえに喜び歌います。御名を愛する者はあなたに守られ/あなたによって喜び誇ります。

詩 9:15 (新共同訳)

9:15 おとめシオンの城門で/あなたの贊美をひとつひとつ物語り/御救いに喜び躍ることができますように。

イザ 58:13、14 (新共同訳)

58:13 安息日に歩き回ることをやめ/わたしの聖なる日にしたい事をするのをやめ/安息日を喜びの日と呼び/主の聖日を尊ぶべき日と呼び/これを尊び、旅をするのをやめ/したいことをし続けず、取り引きを慎むなら

58:14 そのとき、あなたは主を喜びとする。わたしはあなたに地の聖なる高台を支配させ/父祖ヤコブの嗣業を享受せらる。主の口がこう宣言される。

詩 119:14 (新共同訳)

119:14 どのような財宝よりも/あなたの

過ごした後、兄弟たちから、旅の平安を祈られて、見送りを受け、自分らを派遣した人々のところに帰つて行つた。

15:34 [しかし、シラスだけは、引きつづきとどまることにした。]

15:35 パウロとバルナバとはアンテオケに滞在をつづけて、ほかの多くの人たちと共に、主の言葉を教えかつ宣べ伝えた。

ピリ 3:1 (口語訳)

3:1 最後に、わたしの兄弟たちよ。主にあって喜びなさい。さきに書いたのと同じことをここで繰り返すが、それは、わたしには煩わしいことではなく、あなたがたには安全なことになる。

ピリ 4:4 (口語訳)

4:4 あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。

詩 31:7 (口語訳)

31:7 あなたのいつくしみを喜び楽しめます。あなたがわたしの苦しみをかえりみ、わたしの悩みにみこころをとめ、

詩 5:11 (口語訳)

5:11 しかし、すべてあなたに寄り頼む者を喜ばせ、どこしえに喜び呼ばわらせてください。また、み名を愛する者があなたによって/喜びを得るように、彼らをお守りください。

詩 9:14 (口語訳)

9:14 そうすれば、わたしはあなたのすべての誉を述べ、シオンの娘の門で、あなたの救を喜ぶことができましょう。

イザ 58:13、14 (口語訳)

58:13 もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、

58:14 その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う」。これは主の口から語られたものである。

詩 119:14 (口語訳)

119:14 わたしは、もうもろのたからを喜

定めに従う道を喜びとしますように。

詩 119:162 (新共同訳)

119:162 仰せを受けてわたしは喜びます
/多くの戦利品を得たかのように。

箴 23:24、25 (新共同訳)

23:24 神に従う人の父は大いに喜び躍り
/知恵ある人の親は、その子によって楽し
みを得る。

23:25 父が楽しみを得/あなたを生んだ
母が喜び躍るようにせよ。

ぶように、あなたのあかしの道を喜びま
す。

詩 119:162 (口語訳)

119:162 わたしは大いなる獲物を得た者
のようにあなたの言葉を喜びます。

箴 23:24、25 (口語訳)

23:24 正しい人の父は大いによろこび、
知恵ある子を生む者は子のために楽し
む。

23:25 あなたの父母を楽しませ、あなた
を産んだ母を喜ばせよ。

月曜日 2月2日 パウロの「過去の人生」

キリスト教に改宗した人が、イエスを受け入れる前と受け入れたあとという観点から自分の人生を考えることは、よくあることです。パウロもフィリピ(ピリピ)3章でそうしています。とはいっても、正しかったか間違っているかは別として、私たちは時々、クリスチャンでない人を「良い人」と呼びますし、少なくとも世間の基準からすれば、実際に多くの人が善良でしょう。それに対して、神の基準からすれば、誰も善良ではありません。クリスチャンさえもそうです。

問2 フィリピ(ピリピ)3:4~6で、パウロはかつて自分の人生で誇りに思っていた多くのことを挙げています。それらは何でしょうか。あなたは、自分自身の人生(過去と現在)における「良い」ことを、どう表現しますか。

パウロは、偽りの教義を広めているユダヤ人の信者と、自分の救いを全面的にキリストに頼り、割礼のような単なる人間の行いに頼らない無割礼の信者とを暗に対比しています(ヘブ6:1, 9:14 参照、ロマ2:25~29と比較)。パウロの過去の人生や家系は、同胞のユダヤ人にとっては非常に印象的なものだったでしょうが、こういったことはどれも彼の救いには役立ちませんでした。それどころか、彼の救いを妨げました。なぜなら、それらのゆえに、しばらくの間、彼はキリストの必要性に気づけなかったからです。

パウロは単に割礼を受けたのではなく、「八日目に割礼を受けた」人〔口語訳「八日目に割礼を受けた者〕(フィ[ピ]3:5)でした。つまり、生まれながらのイスラエル人であり、契約の民に属する者として、八日目に割礼を受けたのです。さらに、彼はベニヤミン族の出身で、その領土にはイスラエルの最も重要な都市がいくつか含まれていました。パウロはヘブライ(ハブル)語を知っていただけでなく、ガマリエルの弟子であり、ファリサイ人(パリサイ人)であったため(使徒22:3, 26:4, 5)、

律法と、少なくとも言い伝えによる、その適用方法の知識に精通していたはずです。

パウロは律法にとても熱心であったため、律法によって規定されているユダヤ人の生き方を教会が脅かすと考え、教会を迫害しました。興味深いことに、人間的な「義」という点では「非の打ちどころのない者」〔[口語訳「落ち度のない者」\(フィリ\[ピリ\]3:6\)](#)〕であったにもかかわらず、パウロは、律法が実際には想像以上に深く、厳しいものであり、キリストなしに律法の前に立てば、罪に定められることに気づいたのでした。

ローマ 7:7～12 とマタイ 5:21、22、27、28 を比較してください。律法についてイエスとパウロは、どのような重要な点を指摘していますか。また、律法ではなく、「キリストへの信仰」〔[口語訳「キリストを信じる信仰」\(フィリ\[ピリ\]3:9\)](#)〕だけが義の源であるのはなぜですか。

[参考]英語テキストには続きがあります。

Look at it this way: How well do you keep the law, at least in the way Jesus said we should?

このように考えてみましょう。少なくともイエスが私たちに教えられたことに従って、あなたは律法をどれほど守れているでしょうか。

41

フィリ 3 章 (新共同訳)

3:1 では、わたしの兄弟たち、主において喜びなさい。同じことをもう一度書きますが、これはわたしには煩わしいことではなく、あなたがたにとって安全なことです。

3:2 あの犬どもに注意しなさい。よこしまな働き手たちに気をつけなさい。切り傷にすぎない割礼を持つ者たちを警戒しなさい。

3:3 彼らではなく、わたしたちこそ真の割礼を受けた者です。わたしたちは神の靈によって礼拝し、キリスト・イエスを誇りとし、肉に頼らないからです。

3:4 とはいえ、肉にも頼ろうと思えば、わたしは頼れなくはない。だれかほかに、肉に頼れると思う人がいるなら、わたしはなおさらのことです。

3:5 わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、

3:6 熱心さの点では教会の迫害者、律法

ピリ 3 章 (口語訳)

3:1 最後に、わたしの兄弟たちよ。主にあって喜びなさい。さきに書いたのと同じことをここで繰り返すが、それは、わたしには煩わしいことではなく、あなたがたには安全なことになる。

3:2 あの犬どもを警戒しなさい。悪い働き人たちを警戒しなさい。肉に割礼の傷をついている人たちを警戒しなさい。

3:3 神の靈によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇りとし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。

3:4 もとより、肉の頼みなら、わたしにも無くはない。もし、だれかほかの人が肉を頼みとしていると言うなら、わたしはそれをもっと頼みとしている。

3:5 わたしは八日目に割礼を受けた者、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法の上ではパリサイ人、

3:6 熱心の点では教会の迫害者、律法の

の義については非のうちどころのない者でした。

3:7 しかし、わたしにとって有利であったこれらのこと、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。

3:8 そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、

3:9 キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

3:10 わたしは、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあづかって、その死の姿にあやかりながら、

3:11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

3:12 わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。

3:13 兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、

3:14 神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

3:15 だから、わたしたちの中で完全な者はだれでも、このように考えるべきです。しかし、あなたがたに何か別の考えがあるなら、神はそのことをも明らかにしてくださいます。

3:16 いずれにせよ、わたしたちは到達したところに基づいて進むべきです。

3:17 兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。

3:18 何度も言ってきたし、今まで涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵

義については落ち度のない者である。

3:7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。

3:8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

3:10 すなわち、キリストとその復活の力を知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

3:12 わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めていたのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。

3:13 兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、

3:14 目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

3:15 だから、わたしたちの中で全き人たちは、そのように考えるべきである。しかし、あなたがたが違った考えを持っているなら、神はそのことも示して下さるであろう。

3:16 ただ、わたしたちは、達し得たところに従って進むべきである。

3:17 兄弟たちよ。どうか、わたしにならう者となってほしい。また、あなたがたの模範にされているわたしたちにならって歩く人たちに、目をとめなさい。

3:18 わたしがそう言るのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いか

対して歩んでいる者が多いのです。

3:19 彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。
3:20 しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。

3:21 キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

ヘブ 6:1-2 (新共同訳)

6:1-2 だからわたしたちは、死んだ行いの悔い改め、神への信仰、種々の洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、永遠の審判などの基本的な教えを学び直すようなことはせず、キリストの教えの初步を離れて、成熟を目指して進みましょう。

ヘブ 9:14 (新共同訳)

9:14 まして、永遠の“靈”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか。

ロマ 2:25～29 (新共同訳)

2:25 あなたが受けた割礼も、律法を守ればこそ意味があり、律法を破れば、それは割礼を受けていないのと同じです。

2:26 だから、割礼を受けていない者が、律法の要求を実行すれば、割礼を受けていなくても、受けた者と見なされるのではないですか。

2:27 そして、体に割礼を受けていないても律法を守る者が、あなたを裁くでしょう。あなたは律法の文字を所有し、割礼を受けてながら、律法を破っているのですから。

2:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、肉に施された外見上の割礼が割礼ではありません。

2:29 内面がユダヤ人である者こそユダヤ人であり、文字ではなく“靈”によっ

うである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る。

3:19 彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。

3:20 しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。

3:21 彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じくたちに変えて下さるであろう。

ヘブ 6:1、2 (口語訳)

6:1 そういうわけだから、わたしたちは、キリストの教の初步をあとにして、完成を目指して進もうではないか。今さら、死んだ行いの悔改めと神への信仰、
6:2 洗いごとについての教と按手、死人の復活と永遠のさばき、などの基本の教をくりかえし学ぶことをやめようではないか。

ヘブ 9:14 (口語訳)

9:14 永遠の聖靈によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としないであろうか。

ロマ 2:25～29 (口語訳)

2:25 もし、あなたが律法を行うなら、なるほど、割礼は役に立とう。しかし、もし律法を犯すなら、あなたの割礼は無割礼となってしまう。

2:26 だから、もし無割礼の者が律法の規定を守るなら、その無割礼は割礼と見なされるではないか。

2:27 かつ、生ながら無割礼の者であつて律法を全うする者は、律法の文字と割礼とを持ちながら律法を犯しているあなたを、さばくのである。

2:28 というのは、外見上のユダヤ人がユダヤ人ではなく、また、外見上の肉における割礼が割礼でもない。

2:29 かえって、隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、また、文字によらず靈による

て心に施された割礼こそ割礼なのです。その誉れは人からではなく、神から来るのです。

使徒 22:3 (新共同訳)

22:3 「わたしは、キリキア州のタルソスで生まれたユダヤ人です。そして、この都で育ち、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しい教育を受け、今日の皆さんと同じように、熱心に神に仕えていました。

使徒 26:4、5 (新共同訳)

26:4 さて、私の若いころからの生活が、同胞の間であれ、またエルサレムの中であれ、最初のころからどうであったかは、ユダヤ人ならだれでも知っています。

26:5 彼らは以前から私を知っているのです。だから、私たちの宗教の中でいちばん厳格な派である、ファリサイ派の一員として私が生活していたことを、彼らは証言しようと思えば、証言できるのです。

ロマ 7:7～12 (新共同訳)

7:7 では、どういうことになるのか。律法は罪であろうか。決してそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかつたでしよう。たとえば、律法が「むさぼるな」と言わなかつたら、わたしはむさぼりを知らなかつたでしよう。

7:8 ところが、罪は掟によって機会を得、あらゆる種類のむさぼりをわたしの内に起こしました。律法がなければ罪は死んでいます。

7:9 わたしは、かつては律法とかかわりなく生きていました。しかし、掟が登場したとき、罪が生き返って、

7:10 わたしは死にました。そして、命をもたらすはずの掟が、死に導くものであることが分かりました。

7:11 罪は掟によって機会を得、わたしを欺き、そして、掟によってわたしを殺してしまったのです。

7:12 こういうわけで、律法は聖なるものであり、掟も聖であり、正しく、そして善いものなのです。

心の割礼こそ割礼であって、そのほまれは人からではなく、神から来るのである。

使徒 22:3 (口語訳)

22:3 そこで彼は言葉をついで言った、「わたしはキリキアのタルソで生れたユダヤ人であるが、この都で育てられ、ガマリエルのひざもとで先祖伝来の律法について、きびしい薰陶を受け、今日の皆さんと同じく神に対して熱心な者であった。

使徒 26:4、5 (口語訳)

26:4 さて、わたしは若い時代には、初めから自国民の中で、またエルサレムで過ごしたのですが、そのころのわたしの生活ぶりは、ユダヤ人がみんなよく知っているところです。

26:5 彼らはわたしを初めから知っているので、証言しようと思えばできるのですが、わたしは、わたしたちの宗教の最も厳格な派にしたがって、パリサイ人としての生活をしていたのです。

ロマ 7:7～12 (口語訳)

7:7 それでは、わたしたちは、なんと言おうか。律法は罪なのか。断じてそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかつたであろう。すなわち、もし律法が「むさぼるな」と言わなかつたら、わたしはむさぼりなるものを知らなかつたであろう。

7:8 しかるに、罪は戒めによって機会を捕え、わたしの内に働いて、あらゆるむさぼりを起させた。すなわち、律法がなかつたら、罪は死んでいるのである。

7:9 わたしはかつては、律法なしに生きていたが、戒めが来るに及んで、罪は生き返り、

7:10 わたしは死んだ。そして、いのちに導くべき戒めそのものが、かえってわたしを死に導いて行くことがわかつた。

7:11 なぜなら、罪は戒めによって機会を捕え、わたしを欺き、戒めによってわたしを殺したからである。

7:12 このようなわけで、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである。

マタ 5:21、22 (新共同訳)

5:21 「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。

5:22 しかし、わたしは言っておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。

マタ 5:27、28 (新共同訳)

5:27 「あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。

5:28 しかし、わたしは言っておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。

フィリ 3:9 (新共同訳)

3:9 キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

マタ 5:21、22 (口語訳)

5:21 昔の人々に『殺すな。殺す者は裁判を受けねばならない』と言っていたことは、あなたがたの聞いているところである。

5:22 しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。兄弟にむかって愚か者と言う者は、議会に引きわたされるであろう。また、ばか者と言う者は、地獄の火に投げ込まれるであろう。

マタ 5:27、28 (口語訳)

5:27 『姦淫するな』と言っていたことは、あなたがたの聞いているところである。

5:28 しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。

ピリ 3:9 (口語訳)

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

火曜日 2月3日 大切なこと

昨日の研究で指摘したように、かつてパウロが誇りにしていたものは、実のところ、彼の信仰の妨げになっていました。なぜなら、それらがキリストの必要性を彼に気づかせなかったからです。パウロは、商売上の用語(「有利(利益)」と「損失」)を使って、信仰以前の自分の靈的帳簿を説明しています。あまり考えたくはありませんが、人間は誰でも「靈的帳簿」を持っています。以前、パウロの帳簿は、イエスが教えられた聖書の価値観ではなく、当時のユダヤ人の価値観で評価されていました。

回心後、彼の靈的帳簿は大きく変わりました。なぜなら、その価値の尺度が、ユダヤ教の貨幣」から「天の貨幣」へと劇的に変化したからです。

「天から降って来られたお方は、天について語ることができ、天の貨幣を形作っているものを正しく示すことがおできになる。その貨幣の上に、彼はご自分の肖像と銘を刻まれた。彼は、墮落から引き上げ、ご自分の玉座の傍らにまで高めるために来られた人々が置かれている危険をご存じである。彼は、無益で危ういものに愛情を惜しみなく注ぐことの危険性を指摘される。彼は、私たちが時間や才能や

機会を、まったく虚しいものに浪費しないよう、地上のものから天上のものへと心を引き離そうとなさるのである」(『アドベント・レビュー・アンド・サバト・ヘラルド』1890年7月1日号、英文)。

【参考】——Ellen G. White, in The Advent Review and Sabbath Herald, July 1, 1890.

“He who came down from heaven can speak of heaven, and rightly present the things which form the currency of heaven, on which he has stamped his image and superscription. He knows the danger in which those are placed whom he came to uplift from degradation, and to exalt to a place beside himself upon his throne. He points out their peril in lavishing affection upon useless and dangerous objects. He seeks to draw the mind away from the earthly to the heavenly, that we may not waste time, talent, and opportunity, upon things that are altogether vanity.”

1世紀のユダヤ教の世界において、パウロは人気急上昇中の人物でしたが、榮光を受けられたイエスをダマスコ途上で見て、目が見えなくなり(使徒9章)、彼の霊的な視力は矯正され、はっきり見えるようになったのです。

問3 ヨハネ9章には、生まれつき目の不自由だった別の男がイエスをはっきりと見たという話が記されています。イエスは、ご自分がこの世に来られたのは、「見えない者(が)見えるようになり、見える者(が)見えないようになる」**〔口語訳「見えない人たちが見えるようになり、見える人たちが見えないようになる」〕**(ヨハ 9:39)ためであると言われました。この原則は、あなた自身の人生にいかに適用できるでしょうか。

天国と新しい地での永遠の命よりも価値あるものが存在するでしょうか。しかし、この世の価値観は、多くの人がこの事実を見えないようにしています。この世で価値あるもの(マタ 13:22、ルカ 4:5、6、I ヨハ 2:16 参照)と天で価値あるもの(キリストに似ることや救われた魂)との間には、そもそも相いれない対立関係があるのです。

本当に重要なことに目を向け続けるための鍵は、何でしょうか。

【参考】英語テキストにある文(下線部分:翻訳でカットされている文)

The world can blind us to spiritual truths and to what is really important. What is the key to keeping our eyes focused on what truly matters?

この世は、私たちを霊的な真理や本当に大切なものから目をそむけさせてしまうことがあります。本当に重要なことに目を向け続けるための鍵は、何でしょうか。

42

※使徒9章、ヨハ9章はお手持ちの聖書をお読みください。

ヨハ 9:39 (新共同訳)

9:39 イエスは言われた。「わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる。」

ヨハ 9:39 (口語訳)

9:39 そこでイエスは言われた、「わたしがこの世にきたのは、さばくためである。すなわち、見えない人たちが見えるようになり、見える人たちが見えないようになるためである。」

マタ 13:22 (新共同訳)

13:22 茎の中に蒔かれたものとは、御言葉を聞くが、世の思い煩いや富の誘惑が御言葉を覆いふさいで、実らない人である。

ルカ 4:5、6 (新共同訳)

4:5 更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。

4:6 そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与える。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。」

I ヨハ 2:16 (新共同訳)

2:16 なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。

マタ 13:22 (口語訳)

13:22 また、いばらの中にまかれたものとは、御言葉を聞くが、世の心づかいと富の惑わしが御言葉をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。

ルカ 4:5、6 (口語訳)

4:5 それから、悪魔はイエスを高い所へ連れて行き、またたく間に世界のすべての国々を見せて

4:6 言った、「これらの国々の権威と栄華とをみんな、あなたにあげましょう。それらはわたしに任せられていて、だれでも好きな人にあげてよいのですから。」

I ヨハ 2:16 (口語訳)

2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇ほは、父から出したものではなく、世から出たものである。

水曜日 2月4日 キリストの信仰

パウロはダマスコへの途上で、律法に基づく古い生活と引き換えに、キリストご自身の臨在を手に入れるというすばらしい経験をしました。「キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです」〔口語訳「わたしがキリストを得……キリストのうちに自分を見いだすようになるためである〕(フィリ[ピリ]3:8,9)。

問4 「キリストの内にいる」〔口語訳「キリストのうちに自分を見いだす〕といふのは、興味深い表現です。エフェソ(エペソ)1:4、IIコリント5:21、コロサイ2:9、ガラテヤ2:20を読んでください。パウロがこの表現をどのような意味で用いていると、あなたは思いますか。

「キリストの内に[in Christ]いる」〔「キリストにある〕といふパウロの表現は、広く議論されてきました。当然のことながら、おそらく最も良いその説明は、パウロ自身の言葉にあります。「こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるもののが、頭であるキリストのもとに[in Christ]一つにまとめられます。」〔口語訳「それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに歸せしめようとされたのである〕(エフェ[エペ]1:10)。それが最初から神の目的でした。そしてパウロは、それがいかに起こるかを次のように明らかにしています。「神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです」〔口語訳「あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によ

るのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとならされたのである】(I コリ1:30)。

「キリストの内にいる」(「キリストにある」というのは、靈的知性の目覚め(知恵)から、信仰による義認(義)、天国への準備(聖化)、そして再臨における榮化(贖い)に至るまで、救済計画に含まれるすべてのことを包含しています。救済は、一貫して、私たちのための、私たちの内におけるキリストの働き(御業)です。したがって、キリストを得ることで、私たちは必要なものをすべて手に入れられるのです。

問5 フィリピ(ピリピ)3:9を読んでください。パウロはどのような二つのものを対比していますか。この対比を常に覚えておくことは、なぜ重要なのですか。

パウロが言うように、「律法から生じる自分の義」[口語訳「律法による自分の義」]は本物の義ではありません。律法ではなく、キリストだけが信仰によって命を与えることができるからです(ガラ3:21、22参照)。悪魔さえ信じているので(ヤコブ2:19)、どのような信仰でもよいわけではありません。救いを得させる唯一の信仰は、「キリストの信仰」です。キリストの信仰だけが、完全に従順であり、従うことができます(「信仰」に相当するギリシア語 *pistis* は、「忠実さ」をも意味する)。私たちは、キリストへの私たちの信仰を通して、キリストの信仰によって生きるのである。

43

フイリ 3:8、9 (新共同訳)

3:8 そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、

3:9 キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

エフェ 1:4 (新共同訳)

1:4 天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。

Ⅱコリ 5:21 (新共同訳)

5:21 罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。

ピリ 3:8、9 (口語訳)

3:8わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るために、

3:9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

エペ 1:4 (口語訳)

1:4 みまえにきよく傷のない者となるようと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、

Ⅱコリ 5:21 (口語訳)

5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。

コロ 2:9 (新共同訳)

2:9 キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとつて宿っており、

ガラ 2:20 (新共同訳)

2:20 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

エフェ 1:10 (新共同訳)

1:10 こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるもののが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。

Iコリ 1:30 (新共同訳)

1:30 神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

ガラ 3:21、22 (新共同訳)

3:21 それでは、律法は神の約束に反するものなのでしょうか。決してそうではない。万一、人を生かすことができる律法が与えられたとするなら、確かに人は律法によって義とされたでしょう。

3:22 しかし、聖書はすべてのものを罪の支配下に閉じ込めたのです。それは、神の約束が、イエス・キリストへの信仰によって、信じる人々に与えられるようになるためでした。

ヤコ 2:19 (新共同訳)

2:19 あなたは「神は唯一だ」と信じている。結構なことだ。悪霊どももそう信じて、おののいています。

コロ 2:9 (口語訳)

2:9 キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとつて宿っており、

ガラ 2:20 (口語訳)

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をさげられた神の御子を信じる信仰によつて、生きているのである。

エペ 1:10 (口語訳)

1:10 それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによつて、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。

Iコリ 1:30 (口語訳)

1:30 あなたがたがキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、わたしたちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。

ガラ 3:21、22 (口語訳)

3:21 では、律法は神の約束と相いれないものか。断じてそうではない。もし人生かす力のある律法が与えられていたとすれば、義はたしかに律法によって実現されたであろう。

3:22 しかし、約束が、信じる人々にイエス・キリストに対する信仰によって与えられるために、聖書はすべての人を罪の下に閉じ込めたのである。

ヤコ 2:19 (口語訳)

2:19 あなたは、神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。

木曜日 2月5日 ただ一つのこと——キリストを知ること

※「ただ一つのこと」、口語訳「ただこの一事」、フィリピ[ピリ]3:13参照

問6 フィリピ(ピリピ)3:10～16を読んでください。この箇所でパウロが指摘しているおもなポイントは何ですか。

確かに、キリストを知ること以上に大切なことは何もありません。キリストを知ることは、最終的にキリストが私たちを知り、父なる神の前で私たちを認めてくださることを保証します(マタ7:21～23、10:32、33参照)。私たちは、いかにしてキリストを知るのでしょうか。書かれた御言葉を通して、つまり御言葉を読み、御言葉を実践することによって知ることができます。私たちは、十二弟子のようにキリストを直接見て、知ることはできません。しかし興味深いことに、キリストを直接見ても、彼らはキリストの御言葉を理解できませんでした。これは、私たちには聖霊の導きが必要であることを強調しています(ヨハ16:13参照)。キリストを知れば知るほど、私たちはキリストに近づきます。なぜなら、私たちは「キリストとその復活の力」(フィリ[ピリ]3:10)を体験し、それが私たちを「新しい命」〔口語訳「新いいのち〕(ロマ6:4)へと引き上げるからです。

私たちがイエスに近づくもう一つの方法は、「キリストと……その苦しみにあづかる」〔口語訳「キリストと……その苦難にあづかる」〕(フィリ[ピリ]3:10)ことです。試練に直面し、辛い経験をするたびに、イエスが私たちのために経験されたことをより深く知り、感謝するとともに、イエスとその御心をより明確に理解することができるようになります。

イエスに近づくための三つ目の方法は、「目標を目指して」〔口語訳「目標を目指して」〕突き進むことです(フィリ[ピリ]3:14)。その目標とは何でしょうか。これは、新約聖書においてここだけで使われている言葉(「スコボス」)で、競争のゴールラインや勝者に与えられる賞を指します。パウロはそれを、「神がキリスト・イエスによって、上へ召して、お与えになる賞」〔口語訳「キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与」〕(同)と呼んでいます。キリストが死と復活を通して天に昇られたように、神は、同じ天の報酬、つまり永遠の命を受けるよう、私たちを招いておられるのです。

明らかに、私たちはまだそこに到達していません。私たちの「卑しい体」〔口語訳「卑しいからだ」〕が「御自分〔キリスト〕の栄光ある体と同じ形」〔口語訳「ご自身の栄光のからだと同じかたち」〕(フィリ[ピリ]3:21)に変えられるまで、私たちは本当の意味で完成されることはありません。しかし、イエスを知り、私たちの日々の生活に臨在していただくことで、私たちは今、あらゆる点でイエスのようになるという目標に向かって突き進むことができます。これが、パウロが集中して取り組んでいた「ただ一つ」のこと(口語訳「ただこの一事」、フィリ[ピリ]3:13参照)なのです。競走をしているのと同じように(Iコリ9:24～27参照)、私たちはこれまで自分がいた場所や、自分のあとを追ってくる人のことなど気に留めません。私たちの唯一の関心は、前にあるもの、つまり私たちを待っている天の賞にあります。

【参考】英語テキストにある文

Why, in your walk with the Lord, is it so important not to keep looking back, at least back at your sins and failures, but instead to look ahead to what you have been promised right now in Christ?

主と共に歩む中で、過去を振り返ること、少なくとも自分の罪や失敗を振り返ることではなく、今まさにキリストの内に約束されているものに目を向けることが、なぜそれほど重要なのでしょうか。

44

フィリ 3:10～16 (新共同訳)

3:10 わたしは、キリストとその復活の力を知り、その苦しみにあづかって、その死の姿にあやかりながら、

3:11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

3:12 わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。

3:13 兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、

3:14 神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

3:15 だから、わたしたちの中で完全な者はだれでも、このように考えるべきです。しかし、あなたがたに何か別の考えがあるなら、神はそのことをも明らかにしてくださいます。

3:16 いずれにせよ、わたしたちは到達したところに基づいて進むべきです。

マタ 7:21～23 (新共同訳)

7:21 「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。

7:22 かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によつて預言し、御名によつて悪霊を追い出し、御名によつて奇跡をいろいろ行つたではありませんか』と言うであろう。

7:23 そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。』

ピリ 3:10～16 (口語訳)

3:10 すなわち、キリストとその復活の力を知り、その苦難にあづかって、その死のさまとひとしくなり、

3:11 なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。

3:12 わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。

3:13 兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、3:14 目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。

3:15 だから、わたしたちの中で全き人たちは、そのように考えるべきである。しかし、あなたがたが違った考え方を持っているなら、神はそのことも示して下さるであろう。

3:16 ただ、わたしたちは、達し得たところに従つて進むべきである。

マタ 7:21～23 (口語訳)

7:21 わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。

7:22 かの日には、多くの者が、わたしにむかって『主よ、主よ、わたしたちはあなたの名によつて預言したではありませんか。また、あなたの名によつて悪霊を追い出し、あなたの名によつて多くの力あるわざを行つたではありませんか』と言うであろう。

7:23 そのとき、わたしは彼らにはっきり、こう言おう、『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行つてしまえ。』

マタ 10:32、33 （新共同訳）

10:32 「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。

10:33 しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」

ヨハ 16:13 （新共同訳）

16:13 しかし、その方、すなわち、真理の靈が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。

ロマ 6:4 （新共同訳）

6:4 わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

フィリ 3:21 （新共同訳）

3:21 キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

Iコリ 9:24～27 （新共同訳）

9:24 あなたがたは知らないのですか。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも賞を得るように走りなさい。

9:25 競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。

9:26 だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。

9:27 むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自己的方が失格者になってしまわないためです。

マタ 10:32、33 （口語訳）

10:32 だから人の前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。

10:33 しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう。

ヨハ 16:13 （口語訳）

16:13 けれども真理の御靈が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

ロマ 6:4 （口語訳）

6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえられたように、わたしたちもまた、新しい命の中に生きるためである。

ピリ 3:21 （口語訳）

3:21 彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じくたちに変えて下さるであろう。

Iコリ 9:24～27 （口語訳）

9:24 あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。

9:25 しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。

9:26 そこで、わたしは目標のはっきりしないような走り方をせず、空を打つような拳闘はしない。

9:27 すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。

「健全で均齊のとれた品性を築きたいと思う者、よく釣り合いのとれたクリスチヤンになりたいと思う者は、すべてをささげて、キリストのために全力を尽くさなければならない。なぜなら、あがない主は、分割された奉仕をお受け入れにならないからである。日ごとに服従の意味を学ばなければならぬ。神の御言葉を研究し、その意味を学び、その教えに従わなければならぬ。こうして、クリスチヤンとしての卓越した標準に到達できるのである。神は毎日共に働いてくださり、最後の試みの時に耐えられるような品性を完成させてくださる。こうして信者は、福音が堕落した人間にできることを示し、人々や天使たちの前で、崇高な試みを日ごとに成し遂げていくのである」(『希望への光』1540ページ、『患難から栄光へ』第45章)。

「花婿を待ち望んでいる者は、『あなたがたの神を見よ』と、人々に言わなければならぬ。憐れみに満ちた最後の光、世界に伝えるべき最後の憐れみの使命は、神の愛の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわさなければならない。彼らは、その生活と品性において、神の恵みが彼らのためにどんなことをなしたかをあらわさなければならない。義の太陽の光は、良い行い——真の言葉、清い行いなどによって、輝き出なければならない」(『希望への光』1350ページ、『キリストの実物教訓』第29章)。

話し合いのための質問

- ① 主において喜ぶ（主にあって喜ぶ）ということについて、じっくり考えてみてください。これは、試練を喜びなさいと言っているのではなく（それも聖書的な教えですが）、主において喜びなさい（主にあって喜ぶなさい）と言っていることに注目してください。主とその善良さ、その力、その愛、その救いを常に心に留めておくことは、なぜ重要なのでしょうか。人生の避けられない試練の中で、そうすることは、あなたにいかに大きな恩恵をもたらすでしょうか。
- ② 金曜日の引用文が、私たちクリスチヤンの行う「良い行い」を生み出す恵みの役割をいかに説明しているかに、注目してください。キリストが間もなく来られるのを待ち望む私たちにとって、なぜこの恵みの働きは、重要なのでしょうか。つまり、私たちは善行によって救われるわけではありませんが、もし善行が私たちにまったく見られないとすれば、私たちは本当に救われていると言えるのでしょうか。
- ③ 肉に頼らないということについて、さらに考えてみてください。それはどういう意味でしょうか。なぜ私たちは肉に頼るべきではないのですか。私たちの肉は、神からの賜物ではないでしょうか。